

急な病気やけがに

慌てず対処するために

9月9日は「救急の日」です。自分や家族が急な病気やけがをしたとき、どうすればよいでしょう。慌てず適切な行動を取るための方法を紹介します。



応急手当てについて学ぶ — 救急医療週間

平成28年の市内の救急出場件数は4万8363件。1日平均132件、約10・9分に1回の割合で救急隊が出場していることとなります。これは、20年前の約2・15倍。高齢化社会の進展に伴い、今後も救急出場件数が増加することが予想され、いざというときに症状や緊急性に応じた適切な対応がますます必要になります。

国では、9月9日を「救急の日」、この日を含む一週間を「救急医療週間」と位置付け、救急医療に関する普及啓発を図っています。市では、9月17日(日)に楽しく応急手当等を学べる「みんなの救急ひろば」を開催(19ページ参照)。この機会に、正しい応急手当てや救命処置の方法を体験し、いつ起こるか分からない病気やけがに備えましょう。

短縮ダイヤル「おとな救急電話相談」を開設します

突然の病気やけがで、救急車を呼ぶか、医療機関を受診するか判断に迷うことはありませんか。そんなときに役立つ「おとな救急電話相談(＃7119)」を、10月1日(日)から開設します。症状の相談や対処について、看護師等が直接アドバイスをするほか、休日・夜間に受診できる医療機関の案内も行います。子どもの病気等に対応する「宮城県子ども夜間安心コール(＃8000)」と併せ、急な病気やけがの際にご利用ください。

緊急・重症の場合は、ためらわずに119番通報をしてください。

「救命ナビ」に新機能「救急受診ガイド」を追加

急な病人やけがが発生した際、その場に居合わせた方の応急手当て等が重要になる場合があります。市では、応急手当てや救命処置などの流れを学ぶことができるスマートフォン用アプリケーション「救命ナビ」を作成し、緊急時の確な行動について動画や音声で紹介しています。

また、4月より、アプリケーション内に、病気やけがの緊急性の判断をサポートする機能「救急受診ガイド」を新たに追加しました。該当する症状の項目を選択すると、アプリケーションが119番通報や医療機関受診の必要性を判定します。

「救命ナビ」は、各スマートフォンのアプリケーション提供サイトで検索してダウンロードできます。



問 救急医療週間、「救命ナビ」については消防局救急課 ☎ 234・1111、FAX 234・0214、救急電話相談については健康政策課 ☎ 214・8196、FAX 214・446

10月1日(日)
8:00～

おとな救急電話相談

プッシュ回線の固定電話、携帯電話からは

#7119

プッシュ回線以外の固定電話、PHSからは
022-706-7119

平日 19:00～翌8:00
土曜日 14:00～翌8:00
日曜日・祝日 8:00～翌8:00